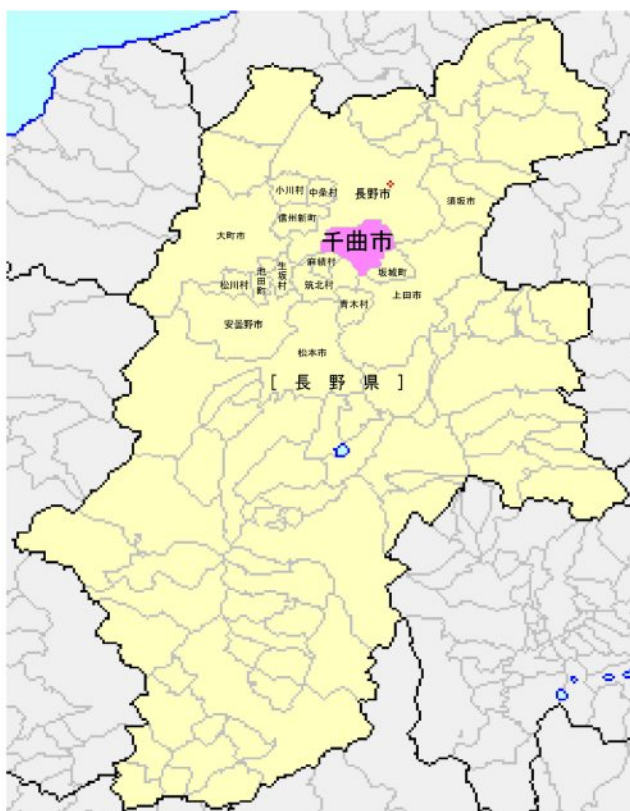


# 第1章 千曲市の概況と水道事業の沿革

## 1-1 千曲市の概況

### <地勢>

千曲市は、長野県の北部、北信地方の千曲川中流域に位置する総面積 119.84km<sup>2</sup> の市で、平成 15 年 9 月 1 日に更埴市、埴科郡戸倉町、更級郡上山田町の一市二町の合併により誕生しました。



西は冠着山（かむりきやま：別名「姨捨山」）、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれています。そのほぼ中央を、東南から北東に大きく曲がりながら千曲川が流れています。千曲川を挟んで両岸に平坦部が広がり、北は善光寺平に接しています。標高の最高地点は大林山で 1,333m、最低地点は 353m です。

### <歴史>

古墳時代には信濃国の古名「科野国（シナノのクニ）」の国造が置かれた地域とされ、科野国の大王の墳墓とされる東日本最大級の前方後円墳である森將軍塚古墳を含む埴科古墳群を有することで知られています。また、江戸期の善光寺街道最大の宿場町として、また明治期に北信随一の商都として栄えた稲荷山宿があり、北国街道と北国西街道の合流点であり、更に善光寺街道から谷街道（北国街道の脇道松代道）が分岐する交通の要衝でありました。現在、市の北部には、首都圏と北陸圏を結ぶ上信越自動車道と、中央自動車道につながる長野自動車道が結ばれる更埴ジャンクションがあり、今も尚、高速交通網の要の役割を果たしています。

### <観光・産業>

古くから善光寺の精進落としの湯として、栄えてきた戸倉上山田温泉は開湯 100 年を経て信州屈指の温泉街を形成し、周囲は「さらしなの里」「名月の里」「あんずの里」が広がり魅力ある観光地です。

千曲川の豊かな水によって育まれた肥沃な大地に恵まれ、「日本一」といわれるトルコギキョウを中心とした花卉栽培、リンゴやブドウなど多品目の果樹栽培が盛んです。また、観光との



タイアップによる姨捨棚田のオーナー制度、「一目十万本」といわれる「日本一のあんずの里」など魅力ある農業を進めています。

首都圏と北陸圏を結ぶ高速道のジャンクションという立地を活かし、最先端のハイテク産業、精密加工業、食品産業が育っています。

### <人口>

当市の総人口は、経済の高度成長期にあった昭和 45（1970）年の国勢調査において 54,870 人でしたが、昭和 55（1980）年の国勢調査において初めて 60,000 人を突破しました。以後、おおむね微増を続けてきましたが、少子高齢化の進行などにより平成 11（1999）年の 64,766 人（推計人口）をピークに微減傾向をたどり、平成 17（2005）年の国勢調査では 64,022 人となっています。

一方、世帯数は、昭和 45（1970）年の国勢調査において 13,475 世帯で、平成 16（2004）年（21,509 世帯）まではおおむね増加していましたが、平成 17（2005）年の国勢調査では 21,251 世帯に減少しました。また、一世帯当たりの人員は昭和 45（1970）年の国勢調査において 4.1 人でしたが、平成 17（2005）年の国勢調査では 3.0 人となっており、世帯の小規模化が顕著になっています。

平成 22 年 1 月 1 日の人口は 62,443 人、世帯数は 21,833 世帯となっています。

表1-1 市域の変換

編入年月日	編入地域	編入後の面積 (km <sup>2</sup> )	人口* (人)	人口密度* (人/km <sup>2</sup> )
昭和30年7月1日 【戸倉町】	戸倉町、更級町、五加村が合併して誕生	25.23	18,326	726.4
昭和30年7月1日 【上山田町】	上山田・力石村が合併して誕生	15.62	6,821	436.7
昭和34年6月1日 【更埴市】	屋代町・埴生町・稲荷山町・八幡村が合併して誕生	78.99	39,402	498.8
平成15年9月1日 千曲市	更埴市・戸倉町・上山田町が合併して誕生	119.84	64,549	538.6

\*平成12年の国勢調査による統計値

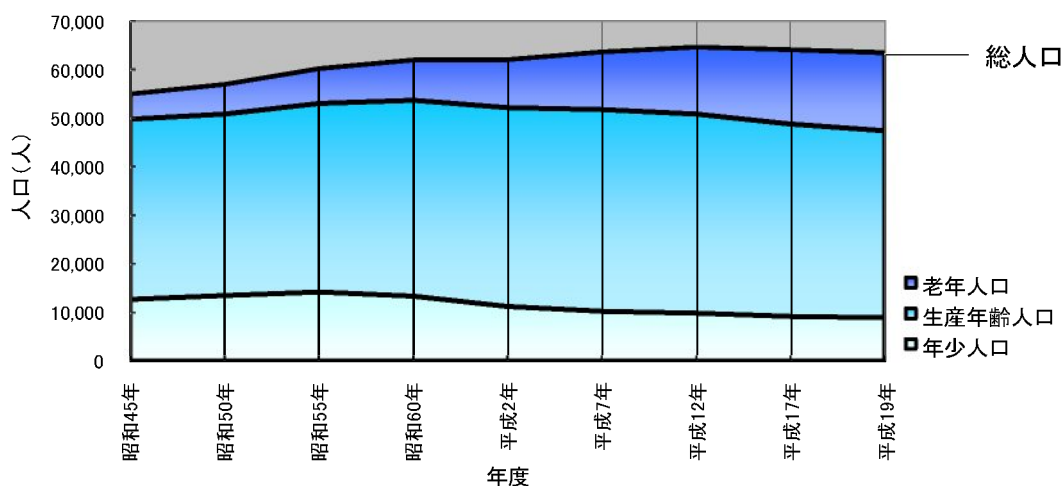


図1-1 千曲市の人口の推移

## 1-2 千曲市内の水道事業

千曲市内における給水は市営上水道事業（八幡地区）、市営簡易水道事業（桑原、大田原、樺平）、民営簡易水道事業（千曲高原）、県営水道事業により行われており、市営上水道事業は給水人口比で13.7%となっています。

表1-2 千曲市内の水道事業と給水区域の状況

水道事業名	給水区域	給水開始年度	市営	市会計	計画給水人口 (人)	計画一日最大給水量 ( $\text{m}^3/\text{日}$ )	H20現在給水人口 (人)	H20実績一日最大給水量 ( $\text{m}^3/\text{日}$ )	給水人口構成比	摘要
八幡上水道	千曲市大字八幡全域	昭和29年度	○	○	7,100	4,300	5,823	2,230	10.1%	
桑原簡易水道	千曲市大字桑原のうち佐野、小坂、西区、中区、東区地域	昭和29年度	○	○	2,160	880	1,917	660	3.3%	（稲荷山簡易水道）
大田原簡易水道	千曲市大字桑原のうち大田原地域	昭和32年度	○	○	310	78	175	60	0.3%	
樺平簡易水道	千曲市大字桑原字樺手山のうち樺平保健休養地域（定住人口無し）	昭和49年度	○	○	1,250	250	0	5	0.0%	
以上市営水道 計					10,820	5,508	7,915	2,955	13.7%	
千曲高原簡易水道		平成11年度			150	100	46	100	0.1%	千曲高原ゴルフ場
長野県営水道	千曲市の桑原、八幡地区を除く地域（他に長野市、上田市、坂城町へ給水）	昭和39年度			（全体） 202,000	（全体） 110,000	（千曲市分） 49,881	（千曲市分） 18,110	86.2%	

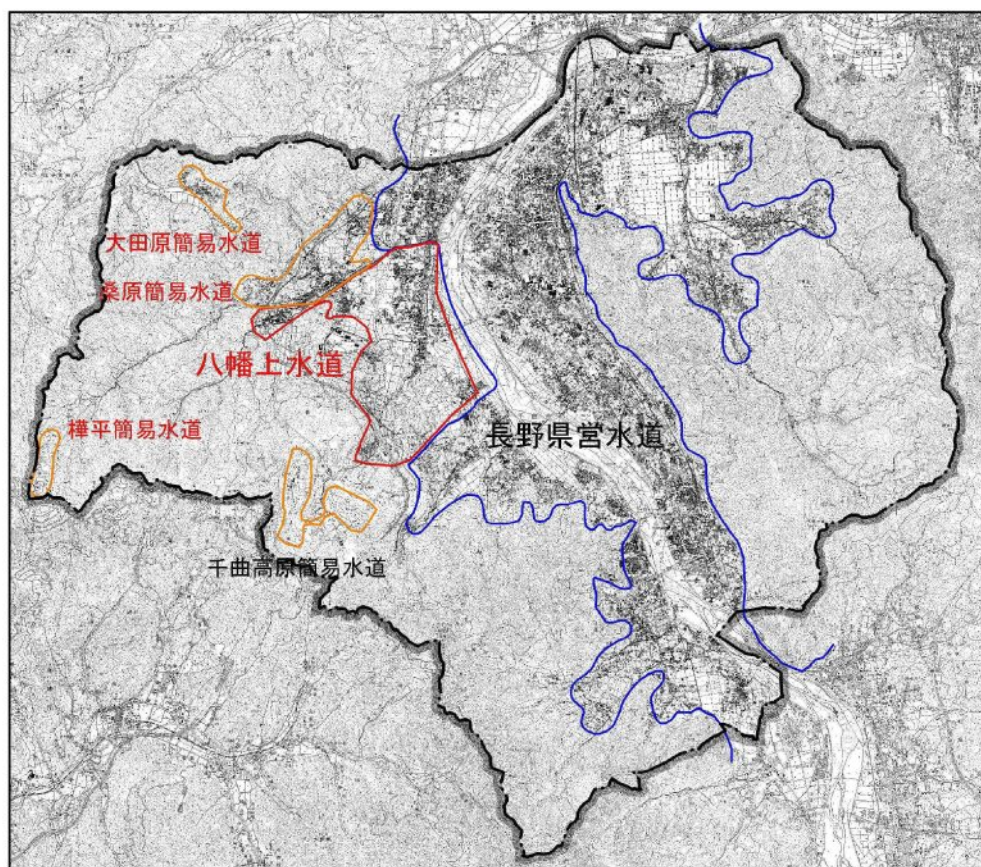
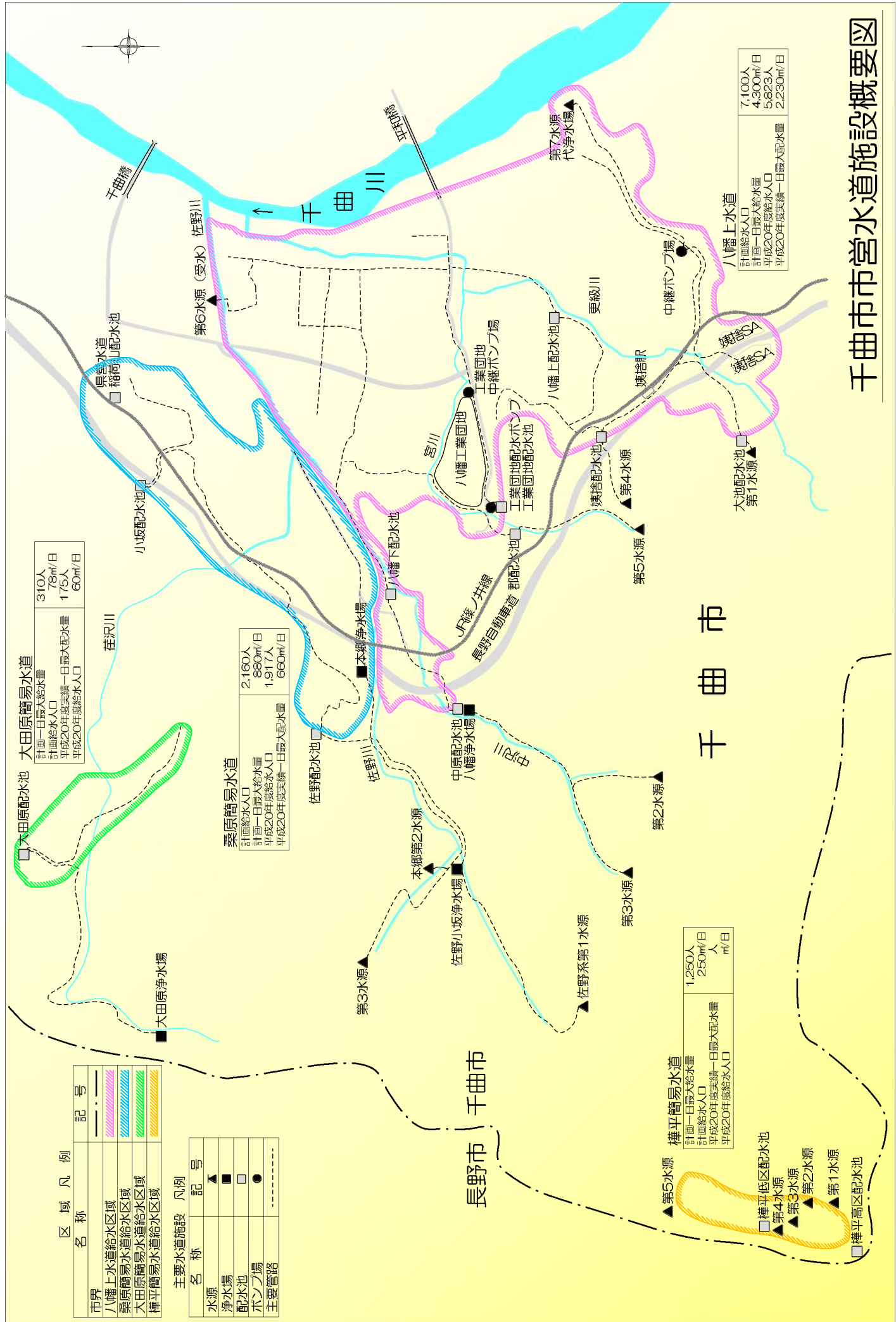


図 1-2 千曲市内の水道事業

# 千曲市市営水道施設概要図



区域名称	記号
市界	---
八幡上水道給水区区域	■
桑原簡易水道給水区区域	■
大田原簡易水道給水区区域	■
榑平簡易水道給水区区域	■

名称	記号
水源	▲
浄水場	■
配水池	□
ポンプ場	●
主要管路	---

大田原簡易水道	
計画一日最大給水量	310人
計画給水人口	78m <sup>3</sup> /日
平成20年度実績一日最大配水量	175人
平成20年度給水人口	60m <sup>3</sup> /日

桑原簡易水道	
計画給水人口	2,160人
計画一日最大給水量	880m <sup>3</sup> /日
平成20年度給水人口	1,917人
平成20年度実績一日最大配水量	660m <sup>3</sup> /日

榑平簡易水道	
計画一日最大給水量	1,250人
計画給水人口	250m <sup>3</sup> /日
平成20年度実績一日最大配水量	人
平成20年度給水人口	m <sup>3</sup> /日

八幡上水道	
計画給水人口	7,100人
計画一日最大給水量	4,300m <sup>3</sup> /日
平成20年度給水人口	5,823人
平成20年度実績一日最大配水量	2,230m <sup>3</sup> /日

## <千曲市営水道の歴史>

千曲市内における、水道の歴史は古く、大正7年に稲荷山町にて上水道整備の認可申請を行ったことが始まりとなっています。当時の稲荷山町は蟹沢川、真光寺川や共同井戸から生活用水を汲んで利用していました。しかし、生活水準が高まるにつれ、水の消費も増加するようになると、水汲みの労働からの解放を願うようになりました。稲荷山町は善光寺街道の宿場町として発展しており、財力があつたこともあり、大正9年の認可を得て、稲荷町水道の整備に着手しました。こうして、長野県下でも町村では最も早い時期の大正10年に給水開始されました。

稲荷山水道に続き、八幡上水道、長谷東谷水道（桑原本郷簡易水道）、大田原水道（大田原簡易水道）、佐野・小坂・本町水道（佐野小坂簡易水道）が創設され、旧更埴市の千曲川西側地区（川西地区）の水道施設が整備されました。

川東地区（千曲川東側）については地下水が豊富であったことより、共同井戸や個人井戸により生活用水を得ていました。しかし、昭和37年に長野県総合開発局より千曲川沿いの10市町村に対する千曲川沿岸広域水道計画概要書（県営水道）が作成されたことを機に、川東地区、稲荷山水道、戸倉町、上山田町については、県営水道に加入することとなりました。

一方、八幡上水道、長谷東谷水道（桑原本郷簡易水道）、大田原水道（大田原簡易水道）、佐野・小坂・本町水道（佐野小坂簡易水道）は水源豊富なことを理由に、県営水道には加入しませんでした。

昭和48年には、長野県企業局からの委託により榊平保健休養地において、榊平簡易水道が創設され、昭和62年度には、桑原本郷簡易水道に佐野小坂簡易水道が統合して桑原簡易水道となったことを経て、現在の千曲市営水道は、八幡上水道、桑原簡易水道、太田原簡易水道、榊平簡易水道の4事業となっています。



(榊平の棚田)

表1-3 千曲市営水道事業年表

年度	千曲市の動き	旧更埴市川西地区					旧更埴市川東地区 戸倉・上山田地区
		八幡上水道	桑原簡易水道	大田原簡易水道	樺平簡易水道	稲荷山水道	
大正以前	稲荷山町、善光寺街道の宿場町として発展	沢水、共同井戸を生活用水として利用					
大正7年度	更科郡稲荷山町上水道整備を計画					稲荷山町水道敷設認可申請を提出(長野県下の町村では最も早い時期)	
大正9年度						千曲川伏流水を水源とする稲荷山水道が計画給水人口4,000人で創設される	
昭和28年度		大池嘉歴湧水を第1水源、大船沢を第2水源として、計画給水人口10,800人、計画1日最大給水量1,512㎥/日で、八幡上水道が創設される	長谷東谷水道(桑原本郷簡易水道)が、計画給水人口1,800人、計画1日最大給水量120㎥/日で創設される				
昭和29年度						元町地区に給水区域拡張	
昭和30年度	戸倉町、五加村が合併(旧戸倉町) 上山田町、カ石村が合併(旧上山田町) 八幡村が長野県より環境衛生モデル実践地区に指定される						
昭和31年度				大田原水道、計画給水人口500人で、創設。(大田原簡易水道)			
昭和32年度			佐野・小坂・本町水道(佐野小坂簡易水道)が創設される				
昭和34年度	屋代町、誦生町、稲荷山町、八幡村が合併(旧更埴市)						
昭和37年度	長野県総合開発局より、千曲川沿いの10市町村に対する千曲川沿岸広域水道計画概要書を受ける。(計画給水人口167,750人)						
昭和38年度	県営上水道期成同盟会総会が開催。稲荷山水道は千曲川河川敷の水源の水量不足と水質悪化を原因に、県営水道へ加入。水源の豊富な八幡村上水道、長谷東谷(桑原本郷)、佐野小坂、大田原の各水道はこれに加入せず。このため、更埴市内については、稲荷山水道の全戸と川東地区の希望者併せて1,914戸が県営水道へ加入となる。上山田町、戸倉町が県営水道へ加入。					稲荷山水道、水量不足により県営水道へ移管。	県営水道に加入
昭和48年度		第1次拡張：計画1日最大給水量2,460㎥/日に拡張(計画給水人口6,600人)		第1次変更：緩速ろ過池新設(計画1日最大給水量78㎥/日、計画給水人口310人)	樺平保健休養地に長野県企業局からの委託により、簡易水道を創設。(計画1日最大給水量250㎥/日、計画給水人口1,250人)		
昭和51年度						川中島地下水源供給開始	
昭和58年度		第2次拡張：給水世帯の増加に伴い、県営水道の受水を開始する。計画給水人口8,700人、計画1日最大給水量3,300㎥/日に拡張					
昭和61年度	水道利用者の内訳、県営水道約60%、市営水道約18%、組合水道3%、自家水19%となる。川東地区の自家水利用者が工業用水等の地下水の汲み上げにより取水不良となり、その後県営水道へ加入するようになる。						
昭和62年度			桑原本郷簡易水道第1次変更認可により佐野小坂簡易水道を統合し、桑原簡易水道となる(計画1日最大給水量573㎥/日、計画給水人口2,050人)				
平成5年度		第3次拡張：嫉捨サービスエリア給水のため、計画1日最大給水量4,300㎥/日に拡張、計画給水人口7,100人	第2次変更：暗日影水源の新設。計画1日最大給水量787㎥/日、計画給水人口1,850人)				
平成15年度	更埴市、戸倉町、上山田町が合併して、千曲市となる		第2次変更：計画1日最大給水量787㎥/日、計画給水人口1,850人)				
平成19年度	千曲市総合計画を策定						
平成21年度	千曲市営水道ビジョンを策定	地域水道ビジョン策定。八幡上水道に桑原簡易水道、大田原簡易水道、樺平簡易水道を経営統合することが水道事業運営上効果的となることより、統合計画書を作成し、厚生労働省へ提出				長野県企業局により、水道ビジョン策定	